

WEEKLY SIGNAL

平成30年6月1日(金) 1426号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/4 (月)	6/5 (火)	6/6 (水)	6/7 (木)	6/8 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	トシ	トシ	トシ
財政他	△ 53,200	+ 4,000	△ 19,000	+ 3,000	△ 5,000
資金需給	△ 52,200	+ 5,000	△ 19,000	+ 3,000	△ 5,000
主な要因	法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税 国庫短期証券発行・償還 (3M) 交付税特会借入・償還		国債発行(10年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,000 CP等買入 △ 100 社債買入 △ 200 補完供給 + 300 成長基盤強化 △ 3,700	成長基盤 △ 300			
オペスタート	国債買入 + 5,100 共通担保(全店) + 2,400 ETF買入 + 100 成長基盤強化 + 5,600	成長基盤 0			
(日本)	マネタリーベース(5月) 日銀営業毎旬報告(5月31日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額			景気動向指数(4月)	国際収支(4月) GDP(1-3月、改定値)
(海外)	米 製造業受注(4月)	米 ISM非製造業総合景況指数 (5月) 欧 ユーロ圏総合PMI (5月、改定値)	米 労働生産性指数 (1-3月、確定値) 米 貿易収支(4月)	米 日米首脳会談(ワシントン) 米 週間新規失業保険申請件数 (6月2日終了週) 欧 ユーロ圏GDP(1-3月、確定値)	加 G7首脳会議(9日まで)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、383兆8,500億円から始まり、国庫短期証券・国債買入れ等を主因に384兆2,400億円まで増加した。その後は2年債の発行を主因として減少し、380兆9,700億円となった。無担保コールON物は、先週に引き続き資金調達ニーズが弱く、週を通して軟調な地合いが続いた。同加重平均金利は△0.072~△0.065%のレンジで推移した。ターム物は1~2W物を中心に△0.05%台での取引が中心となった。  
アメリカ連邦準備理事会は30日、地区連銀経済報告(ページブック)において、4月後半から5月上旬にかけてのアメリカ経済を「緩やかに拡大した」と総括判断した。来週は、国内では景気動向指数(6月7日)、海外では、アメリカISM非製造業総合景況指数(6月5日)、日米首脳会談(6月7日)等が予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆3,000億円で、週間償還総額の約1兆700億円を大きく上回った。月末日スタートでは1兆3,000億円を超える発行となり、500億円以上の大型案件が散見されるなど、活況なマーケットとなった。5月末の発行市場残高は17兆2,527億円と、前月比1兆285億円の増加であった。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが引き続き旺盛で、概ねマイナス~0%近辺の出会いとなった。28日にオファーされたCP等買入オペ(2,000億円)は、按分レート△0.004%、平均落札レート0.002%と前回比小幅上昇した。来週の償還総額は、約4,700億円となっている。月末越えのショートターム物の期落ちが多く、償還超が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出会いであろう。5日にCP等買入オペ(2,500億円)がオファーされる予定。

<TDB>

1日に行われた国庫短期証券3M第761回債の入札は、最高落札レート△0.1443%(前回債△0.1383)、平均落札レート△0.1479%(同△0.1431%)と前回債からマイナス幅はやや拡大した。セカンダリー市場は新発3Mはほぼ入札と同水準の△0.148%の出合が見られた。来週は7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初から週央にかけて△0.145%~△0.16%で推移した。月末初となる31日受渡しは△0.20%台半ばから出合いが付き始めたが、△0.14%近辺までレート上昇。短国3Mの発行日となる4日受渡しでは一段高となり、△0.11%近辺の出会いも一部見られた。SC取引では10年350回債のbidが多く、週前半は△0.10%台後半~△0.20%近辺。1日の国債買入れオペ後は△0.20%台後半~△0.30%近辺で多く取引された。その他2年386・387・388回債、5年133・134・135回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年9・10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。